



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／宮城 強 福岡県教育庁京築教育事務所社会教育室 主任社会教育主事
向井 文子 佐賀県教育庁社会教育・文化財課 社会教育主事

分科会の進め方

13:30～13:35

1 まちの助け人隊—NPO法人シニアネット光によるICT (Information and Communication Technology)を活用したまちづくりと市民活動支援方策— 13:35～14:05

福森 宏昌（山口県光市 NPO法人シニアネット光 代表理事）

事業の担い手はシニア、行政と協働のタッグを組み、ICT機能をフル活用して市民活動の支援を行なっている。活動開始は平成12年、法人化は平成16年。現在のメンバー構成は男女半々の25名である。目標は市民活動を活性化して生涯現役社会をつくることとし、ICT講座の開設、子ども文庫の電子管理化、イベントのビデオ撮影、県民活動支援センターの相談カードの電子化など活動範囲は多岐にわたっている。活動の舞台はNPO法人シニアネット光交流ひろば、光市生涯学習センター、光市地域づくり支援センターなどである。

2 地域発見「まちあるき」プログラムの観光、教育、まちづくり成果—「かごしま探検の会」のまちあるきでまちづくり— 14:10～14:40

東川 美和（NPO法人かごしま探検の会 事務局長）

活動の中心は「NPO法人かごしま探検の会」である。発想の原点を、地域はミュージアムであるというフィールド・ミュージアム構想に置き、「なんでも参画」、「なんでも楽しむ」、「がんばらないまちづくり」をモットーに、2001年度から「まちあるき」の手法を観光、教育、まちづくりに応用して来た。すでに県内各地で100回以上の「まちあるき」事業を展開し、鹿児島県内の大部分のボランティア・ガイドを育成して来た。

ティータイム

14:40～15:05

3 地域づくり機能のネットワーク化による個別団体の活性化と相乗効果の創造—小川町まちづくり委員会に結集した各種団体機能の連携と融合— 15:05～15:35

中尾 雅幸（熊本県宇城市 小川町まちづくり委員会 事務局）

「小川町まちづくり委員会」の中心は商店街を中心に地域づくりを推進する「まちやサポートクラブ」、女性の地域づくりグループ「風の会」、地域婦人会、小川町商店街振興会、小川小学校などである。「委員会」の結成を機に単独では実行の難しい事業に共同で取組み、情報の共有化、連携による実践の効率化を図り、個別団体の活性化と事業効果の向上という一石二鳥を目標としている。実施した主たるプロジェクトは地域文化・食文化の伝承、高齢者福祉、商店街活性化、地域コミュニティの復活、小学校の体験学習やキャリア教育などである。

4 団塊世代の学びと商店街の活性化のために「浜んまち界隈キャンパス」—もう一度、ジーンズをはいて町へ出よう— 15:40～16:10

松尾 修（長崎県教育庁生涯学習課 指導主事・社会教育主事）

「消費の場」として団塊世代になじみ深い商店街を「学びの場」として活用し、社会参画の契機としたいという思いから出発したパイロット事業。舞台は長崎市の中央部の「浜んまち」界隈の商店街。商店街の衰退傾向や退職世代の引き籠り傾向にたいする考慮も発想の背景にある。3日間で30店舗32講座、延べ65回、約450名が受講した。商店街の協力を獲得すること、メディアを活用した関係地域に対する重点的な広報活動を行なうことが本課の業務の中心だった。平成21年度は場所を佐世保市に移して実施する予定である。